



西谷 佳浩 先生

略歴

1996年 岡山大学歯学部卒業
2000年 岡山大学大学院歯学研究科修了
岡山大学歯学部附属病院 助手
2001年 岡山大学大学院医歯学総合研究科 助手
2003年 岡山大学歯学部附属病院 講師
2004年 アメリカ合衆国ジョージア医科大学 客員研究員（2006年7月31日まで）
2007年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 助教授
2015年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授
日本歯科保存学会 理事・指導医・専門医
日本接着歯学会 理事・認定医
日本再生歯科医学会 副会長・理事・指導医・認定医

これからの根面う蝕へのアプローチ

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科保存学分野
西谷 佳浩

根面う蝕は小児や未成年には見られず、歯周病により露出した歯根面に発生する成人のう蝕である。どの世代でも現在歯数は増加しており、高齢者についても同様である。しかしながら高齢者においては、同時に歯周病とう蝕が増加している。若い世代でう蝕が激減している一方で、高齢者のう蝕有病者率は過去最高となっている。その多くは根面う蝕である。歯冠部に発生するう蝕と比べて、表在性の根面う蝕では視診で認識するのが困難なことから、再石灰化療法が有効なタイミングを喪失しやすいことや、エナメル質よりも脱灰抵抗性が低いことから、病変が側方へ広がることでう蝕病巣の辺縁が不明瞭となり、修復治療が困難となる特徴がある。このようなことから、歯肉退縮により露出した根面に発生するう蝕への対応が課題となっている。

根面う蝕へのアプローチは大きく予防と非侵襲的処置あるいは切削を伴う修復処置に大別される。従来から根面う蝕に対しては、フッ化物の応用は広く普及しているが、ホームケアによる予防を念頭においた歯磨剤が開発されている。

さらに修復処置においてもグラスアイオノマーセメントやコンポジットレジンが充填材として選択されてきたが、抗菌性や歯質脱灰抑制効果が期待できる成分が配合された新しいグラスアイオノマーセメントも製品化されている。

当教室では、根面う蝕の進行を抑制する予防策として、象牙質コラーゲンの分解抑制効果が期待できるDL-ピロリドンカルボン酸（PCA）を配合した歯磨剤の効果を臨床的に評価している。すなわち従来のフッ素配合歯磨剤とさらにPCAを配合した新規歯磨剤とを根面う蝕を有する患者にランダムに振り分けて3ヶ月間使用した場合に、PCAを配合した歯磨剤を使用した患者ではう蝕の進行が抑制されることが示唆されており、現在も継続して研究を行っている。

また、う蝕の成立にはう蝕原生細菌の歯面への付着に始まり、バイオフィーム形成と密接な関連性があることから、新規グラスアイオノマーセメントに配合された亜鉛、フッ素、カルシウム、ケイ素を含有した亜鉛ガラスによる*S. mutans*の付着抑制についても検討を行っている。実験の結果、両グラスアイオノマーセメントの表面性状に明確な差は認められなかったにも関わらず、亜鉛ガラスを配合したグラスアイオノマーセメントでは細菌の付着抑制がみられた。このことから亜鉛ガラスから徐放されるイオンによって初期付着が抑制されたと考察している。加えて、コンポジットレジンや接着システムの改良も進んでおり、根面う蝕治療に適した製品も選択可能となっている。

このように根面う蝕へのアプローチは、従来の治療からパラダイムシフトしており、今後の診療の一助となるべく、それらの特長について解説したい。